

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名	地区内集落名	作成年月	直近の更新年月
南小国町	脇戸地区	脇戸集落	令和4年3月	令和 年 月

1 対象地区の現状

① 地区内の耕地面積	11.7 ha
② 地域内の耕地面積について、アンケート調査等に回答した耕作者の耕作面積の合計	8.2 ha
③ アンケート調査等に回答した、地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	3.6 ha
i うち後継者のいる農業者の耕作面積の合計	0.8 ha
ii うち後継者のいない農業者の耕作面積の合計	1.7 ha
iii うち後継者について未回答の農業者の耕作面積の合計	1.0 ha
④ 地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0.8 ha
(備考)	

注: ④の面積は、次頁の「中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

2 対象地区の課題

- ・兼業農家が大半で、農機具がある間は農業をするが、将来的には農地・農業に展望が持てない状況となっている。
- ・耕作者が主体となって行っている水路、農道、畦畔等の管理にどのように取組むか検討する必要がある。
- ・地域内に中心となる経営体が少なく、主に集落内の個々の農業者が耕作をしている。耕作できなくなった場合、あるいは離農した場合に、どのようにするか集落全体で考える必要がある。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話し合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

- ・現状では中心となる経営体が少ないため、地域の農家を中心に話し合いながら農地を守っている。
- ・今後、離農や規模縮小する農家の農地を借受ける場合は、担い手間で協議し、効率的な経営が図れるように集約化に努める。
- ・地域農業の継続を図るため、新規就農者の確保・育成を目指す。